

# 新しい子宮頸がん検査のお勧め

HPV(ヒトパピローマウイルス)DNA検査

細胞診

+

HPV-DNA検査

⇒ふたつの検査を併用することで検診精度が高くなります。  
(HPV-DNA検査の単独受診はできません)

※細胞診検査とHPV-DNA検査は子宮の入り口(頸部)の細胞を採取して、両方の検査が可能です。

細胞診検査に追加してオプション検査として受けることができます。  
検査には追加料金 ¥3,780が必要となります。

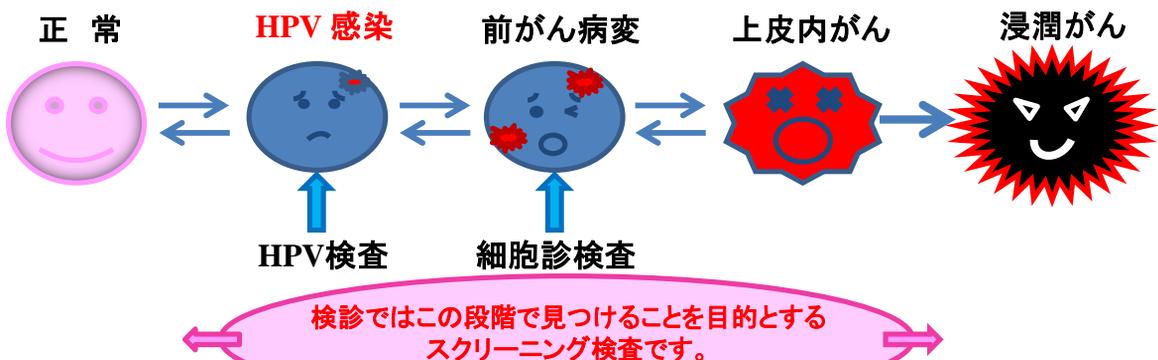
細胞診検査：従来より子宮頸がん検診で使われている検査法で、採取した細胞にがんを疑う異常細胞があるかどうか顕微鏡で調べる検査です。進行がんの診断率が高いです。

HPV - DNA 検査：子宮頸がんの原因となるウイルスに感染しているかどうかを調べる検査です。がんの進行度は判断できないが、細胞ががん化する前の「前がん病変」の発見に有効です。

## HPV (Human Papilloma Virus) について

このウイルスは性行為によって多くの人々が感染するありふれたウイルスです。HPVは、これまで100種類以上のタイプが存在することがわかっています。そのうち高リスクタイプが前がん病変を経て子宮頸がんになるといわれています。陽性でも治療の必要はなく、ほとんどの人が数年で陰性になりますが、陰性にならなかった人のうち、わずかな人が 持続的感染 により子宮頸がんになるといわれています。但し、ウイルス感染からがんになるまで5年以上かかるといわれています。

### ➤HPV(ヒトパピローマウイルス)感染から子宮頸がんへの移行過程



HPV感染からがん化するまで数年から十数年かけて進行する